

日留賀岳山行報告

栃木百名山 27 座 1848m

[山行日] 2018 年 4 月 29 日

[参加者] CL : 菅井修 SL : 八角洋 記録 : 寺崎眞理

4:00 千葉出発

外環から東北道、那須塩原 IC を降りる。千葉とは違い、新緑が光っている。塩原のくねくね道を抜け、農道を通り、「日留賀岳入口」「駐車場」と手書きされた小さな看板を見つけるが、どう見ても個人の敷地。菅井さんの「ここで間違いない。」に、半信半疑で農家の敷地に 7:20 駐車する。一応菅井さんが止めさせてもらうことを家人に断る。高台にある農家の真ん前には高原山が鎮座していた。その農家、小山さん宅の右端に寄り合い所のような部屋が造ってあり、その前には登山届が置いてあった。個人の家でこういうことをしているなんて、びっくり。菅井さんが「昨日、千葉の人が登ってる。」と氏名を書きながら言った。

下山後、こんな山に一人で登るなんてすごい！と感激。

7:40 出発

家の右手薄暗い裏に回ると、もうそこが登山の始まりだった。わきにはクマガイソウ、左手には階段で上っていく小さな祠、これが個人の敷地!?



鉄塔直前の明るい林

石碑が朝日に光り、木々の新緑を見、松ぼっくりや落ちた枝葉の音をサクサク聞きながら歩く。所々にヤマツツジ、ミツバツツジ咲き始める。この山を大事にしている小山さんたちの気持ちが伝わってくる。左右にうねうねとした山道を歩く

8:15 鉄塔に出る。ここからは道幅が広くなだらかな林道だ。しかし、左手の崖は泥岩質のようで、崩れかけたところが何カ所も、落石注意の看板も…大きな岩がいくつも転がっている。



林道脇のリンドウの花



9:25 休憩

20 分後に出発。根元が 3 本に分かれた大木のヤマザクラの下には散ったばかりの花びらの絨毯。正面にはいつも日留賀岳がそびえている



道の端にはいくつものヒトリシズカの群生。cは「オオゼイカシマシ」と命名。可愛いリンドウの紫が目に飛び込んでくる。道の端にはいくつものヒトリシズカの群生。cは「オオゼイカシマシ」と命名。可愛いリンドウの紫が目に飛び込んでくる。

山側は杉が枝打ちされ理路整然とした林になり、谷側はミズナラ、ブナ林が美しい。

やがて、林道終点で登山口と書かれた小さな看板が目に入る。えっ、今までは登山道ではなかった？

ここからが本格的な登山道だ。所々落ち葉で登山道がわかりにくくなるがやがて明るいカラマツの人工林に入る。林床の至る所にカタクリの小さな葉が見られる。道の両脇には、カタクリがいくつかは咲き残っている。

急登ノ後 樹林の隙間からの昼留賀岳

木々の赤いマーカーが、わかりやすい。見事なアカヤシオの所を過ぎ、左に曲がると緩やかな登りが済み急登。

しばらく行くと、アスナロ林になるが、枝打ちされておらず、これまでの風景とは大違い。

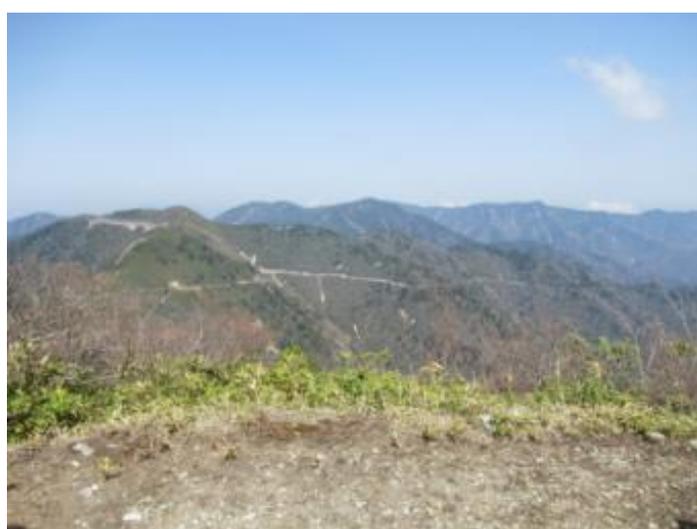
10:20 どんどん急登になってくるので小休止。また、急登が終わると少し平たんになり、すぐにブナ林になり。大きな 2 本のシラカバが存在感。20 分ほど行くと残雪が見られるようになる。樹林の奥に八角さんが立派なサルノコシカケを見つける。せっかく上ったのに下りまた上り

で、やっとピークらしき所に到達、20分ほど休憩。10:55、木で作られた鳥居をくぐる。尾根をどんどん進んで行くと、12:05今度は小さな金属の鳥居。どんどん残雪道が増えてくる。その後は道が険しくなり、岩の間を抜け這い上る。

12:40 登頂。やっとで山頂の石の祠に辿り着く。春霞で霞んでいるが360度の展望。澄み切った青空だったら素晴らしい展望だと思う。それでも遠く雪を頂いたアルプスを見て、達成感に浸るが、暫くは登りたくはないと思った結構大変な山。



日留賀岳 山頂



山頂より北方面の展望

13:15 下山開始。帰りにもサルノコシカケを見たかった八角さん。でも、見つけれなかった。それでもよかった、と三人で納得。15:55 登山口に戻る。

駐車した民家に感謝しお礼をいうと 山菜収穫後の作業をしていた方から「ギボウシ」を分けてもらった。ゆでておひたしにすると癖がなく大変おいしいとのことだった。

途中誰にも出会わなかったのが、山の場所、距離の長さなどでレベルの高い山のような気がした。

(文責:寺崎)